

歴女がゆく

発見！私のイチ押し仏像 VOL. 2



重要文化財

木造 釈迦如来立像

鎌倉時代／延命寺蔵

秋には紅葉が美しく、蓮池に映るもみじの朱色が素晴らしいのだとか。また秋にも訪れたいと思いました！



仏像ZOOM UP! +

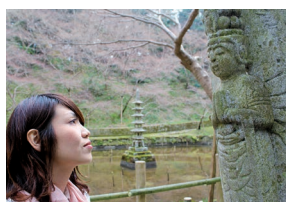
頭髮は縄状で組紐を束ねたように正面で大きな渦を巻いている。これは、釈迦が当時の修行法である断食などを行い、菩提樹の下に座って瞑想し、悟りを開いた時の姿ともいわれている。



もとは、西琳寺（羽曳野市）から明治5年に延命寺にもたらされた釈迦如来立像（写真①②）。

右手は、肘を曲げて手のひらを正面に向ける施無畏印説法を聞く人々の緊張を和らげるポーズ、左手は下げて手のひらを正面に向ける与願印（願うものを与えることを示すポーズ）を結んでいます。像高は157.2センチです。鎌倉時代の作とされています。像は複数の木材を組み合わせた寄木造りという技法で造られています。

今回特別に5月17日～19日にかけて公開されますので、ぜひ実物をご覧ください。



もみじ山に通じる小道にある33体の観音石仏は様々な表情を見せてくれます。

仏像まめ知識 ② 釈迦を象徴した仏足石

現在では、仏教寺院で仏像が祀られています。仏教が成立した当初は、釈迦が偶像崇拝を禁じたため、仏像は造られませんでした。釈迦の足をかたどった仏足石が釈迦を象徴するものとして信仰の対象となっていました。しかし、1世紀頃になると釈迦の姿をした像が造られるようになります。なお、初期の仏像にはギリシャ彫刻の影響が強くみられるといわれます。



興禅寺の仏足石



美加の台駅から南海バスに乗り、バス停留所「神ヶ丘口」下車。徒歩 10 分

今月の歴女 寺田陽子さん

市役所で産業活性のための部署に所属。観光の仕事で名所旧跡を巡るうちに歴史好きに。「ここ奥河内には自然はもちろん歴史上の見どころもたくさんあります。多くの人に実際に訪れてほしいです」

